

# がん研ボランティア 活動報告書（2015）



**がん研有明病院**  
CANCER INSTITUTE HOSPITAL

(ボランティア支援室)

## 平成 27 年度 ボランティア活動 年間のご報告

日頃より、がん研有明病院のボランティア活動にご支援ご協力をいただき、ありがとうございます。一年間のボランティア活動を振り返り、活動状況を共有しながら新しい取り組みにチャレンジするきっかけとなるようお届けしております『ボランティア活動報告書』も今回 5 号目の発行となりました。

がん研ボランティアの歴史は古く、1980 年に一人の女性によって活動がスタートいたしました。2005 年に豊島区大塚から江東区有明へ移転し、2015 年は移転から 10 年を経て、ボランティア活動も活動開始 10 周年を迎えることができました。これを記念して、現在登録されているボランティアの皆さま、OB・OG の皆さまの他、コンサートやイベントの実施にあたって多大なご支援をいただいている方をお招きして、「ボランティア 10 周年記念の会」を開催しました。病院スタッフと一緒にお祝いできたことは、とても大きな喜びでした。また、ボランティアの皆さまからも、活動への励みとなったとの嬉しいお声をいただくことができました。これまで多くの方のお知恵やお力をお借りして、様々なボランティア活動を実施して参りましたが、活動を通じて、がん治療を受けられる患者さんやご家族に、心安らく瞬間や快適な空間をお届けすることができただけでなく、縁の下の力持ちとして職員に対しても陰ながらサポートしていただきましたことに、心から御礼申し上げます。

次の 10 年へ向けての新たな一步を踏み出すにあたり、これまでの活動の良いところを守りながらも、時代の流れやボランティア活動に求められるニーズに合わせて、新しい風を受け入れていくことも必要になって参ります。長い間続けてきたことに変化があると、時には苦痛と感ずる場合もあるかもしれませんが、ボランティアをする側の気持ちだけ推し進めるのでは、親切の押し売りにもなりかねません。ボランティアを受ける側の患者さんやご家族の気持ちを汲み取った活動を実施することが、がん研有明病院で期待するボランティアの姿になります。今後は、ボランティアさんご自身が変化にも柔軟に対応していただいて、積極的に活動していただけるよう更なるご協力をお願いしたいと考えております。

がん専門病院のボランティア活動としての基盤も整って参りました。人の痛み分かち合い、助け合うことによって互いに学び得ることも多いと思います。患者さんやご家族への寄り添う気持ちを忘れずに、病院スタッフと力を合わせて、細く永く、さりげない温かさをお届けしていくことができればと願っております。今後ともがん研のボランティア活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

2016 年 5 月

がん研有明病院 ボランティア支援室

柴田かおり

### がん研有明病院

#### ボランティアの目指すもの



- ・ 入院、通院されている患者さんが院内で快適に過ごすことができるように支援します
- ・ 患者さんが安心して治療できる環境づくりの担い手となります
- ・ 患者さん、ご家族と病院や社会との間をつなぐ架け橋となります
- ・ 入院生活に季節の風をもたらしませす
- ・ 院内のサービスの向上と充実につながるよう陰ながらサポートします

がん研有明病院ボランティア支援室

### がん研有明病院 ボランティアシンボルマーク



カニのハサミがボランティア (Volunteer) の V マークを象り、2 つのカニのハサミは手と手を取り合い助け合いをイメージしたシンボルマーク

## 1. コンサート活動のご報告

病院主催行事として開催しているコンサートの活動では、月1回のホスピタルコンサートに、毎週火曜日のBGMタイム、緩和ケア病棟でのミニコンサートと、3つのタイプのコンサートを開催して患者さんやご家族に音楽を聴きながら楽しい時間をお過ごしいただきました。

演奏はプロとして活躍されているアーティストの方、またはプロ活動に準ずる活動をされている方をお願いして、謝礼や交通費もない全くのボランティアでご協力いただいております。演奏ボランティアの方には、がん専門病院での演奏であることをご理解いただき、がん治療に向き合う患者さんと一緒に闘っているご家族に少しでもお元気になっていただけるよう、明るく心温まる曲を選んでいただき、素敵な演奏を院内に届けていただきました。

治療中の患者さん、そして、ご家族も様々な痛みや苦しみ、恐怖、涙をこらえて心の内側に思いを秘めていらっしゃる。その思いを音楽の力によって外に引き出すことができ、時には涙を流すことで治療に立ち向かうパワー、次の一步を踏み出すパワーにも繋がっています。音楽がいかにか心を癒してくれるか…、演奏を聴かれる患者さんやご家族の姿から感じ取ることができました。

### 【ホスピタルコンサート】

- 開催日時：月1回（17:00～17:40）
- 場 所：1階ホスピタルストリート
- 開催回数：10回
- 対 象：患者さん、ご家族、面会の方



今年度のホスピタルコンサートは、有明移転10周年のアニバーサリーイヤーということもあり、これまでのコンサートに出演していただいた方で、患者さんやご家族に大変好評だった演奏者の方を中心に出演のご協力をお願いしました。著名なアーティストの方が多く、お忙しい中を皆さま快く引き受けてくださり、8組の方が再出演となりました。また、初めて日本の伝統文化である雅楽の演奏と、新しい風を運んでくださるのにピッタリなデビューしたばかりのフレッシュな演奏者の方まで、とても豪華な演奏者の皆さまにお力をお借りすることができ、記念の年にふさわしいコンサートとなりました。

毎回沢山の患者さんやご家族が1階のホスピタルストリートまでお越し下さり、会場のお席がいっぱいになるほどでした。また、入院患者さんの中には生演奏を聴きたいと、ベッドで寝たままの状態でも病棟から降りて来てくださる方、酸素マスクや点滴をしながら会場まで足を運んでくださる方もいらっしゃいました。

コンサート開催にあたっては、治療中の患者さんへの配慮を忘れずに、病院スタッフも安全第一での運営を心がけ、緊急時に備えて看護部からのバックアップ体制も整いました。患者さんにもご家族にも安心してコンサートを楽しんでいただけるよう、病院全体でこのコンサート活動を続けていきたいと考えています。

また、コンサートを素敵なお花で華やかな雰囲気彩ってくださるのは、帝都典礼様、平安祭典様のスタッフの皆さまのお力添えのおかげです。コンサート会場を素敵なお花で飾ってくださるほか、患者さんから出演されたアーティストの方へ贈呈している豪華な花束、会場設営や片付け、座席への誘導やご案内など、病院スタッフよりも率先して動いてくださっています。両社のスタッフの皆さまのボランティア精神の高さには、病院スタッフも見習うべき点が多々あります。

## 大島花子コンサート

2015年4月17日 開催

【出演者】大島花子さま（ヴォーカル）・笹子重治さま（ギター）



坂本 九さんの長女で歌手の大島花子さんと、多くのアーティストと共演されているギタリストの笹子重治さんをお迎えしてのコンサート、様々な曲で院内にさわやかな風を運んでくださいました。中でも、患者さんに大人気の『上を向いて歩こう』では、九ちゃんから譲り受けた手話を会場の皆さんへ教えてください、手話をまじえて歌うことができました。患者さんお一人お一人に温かい眼差しで語りかけるように歌を届けてくださる花子さんの歌声に癒された方も多く、晴れやかな笑顔で涙を流される方もいらっしゃいました。終了後、ホスピタルコンサートでは初めてでしたが、会場の皆さんとハイタッチをしてくださり、患者さんやご家族も大喜び、心と心が繋がった！と感ずることができた素晴らしいコンサートになりました。

## 雅楽コンサート『古の調べ』

2015年5月21日 開催

【出演者】東儀雅美さま（龍笛）・東儀九十九さま（笙）



雅楽と言えば東儀秀樹さんのテレビ出演で広く知られるようになりましたが、奈良時代より1300年続く雅楽の名家、東儀家より九十九さんと雅美さんをお迎えしました。秀樹さんのお母さまとお姉さまです。雅美さんの舞によりコンサートが始まり、舞台衣装に仮面を着けて登場された雅美さんの姿に、皆さんも大変驚いていました。神前式などで流れる越天楽や、秀樹さんが編曲された曲も沢山聴かせていただきました。楽器や音について様々なお話をしてくださり、患者さんも楽しそうにお話を聴かれています。アンコールで演奏して頂いた「ふるさと」では、歌を口ずさんでいる方や涙を流して聴いている方もいらっしゃいました。雅楽という日本伝統の音楽を聴くことができ、会場全体が温かな感動に包まれ、患者さんはもちろんのこと、病院スタッフにとっても大変貴重な経験となりました。

## SOMETHIING NEW コンサート

2015年6月18日 開催

【出演者】野口 茜さま（ピアノ&メロディオン）・茅野 嘉亮さま（トランペット）



“なにか新しいことを”というコンセプトのもと活動されているデュオ「Somethiing new」のお二人、トランペット&ウクレレ奏者の茅野嘉亮さん、ピアノ&鍵盤ハーモニカ奏者の野口茜さんをお迎えしてのホスピタルコンサートです。このコンセプトは有明移転10周年を迎えたがん研にとてもぴったりで、さわやかなお二人に新しい風を届けていただきたいと、出演をお願いしました。カバー曲だけでなく、「もしも晴れたら」「time for a walk」といったオリジナル曲も演奏してくださいました。当日はあいにくの雨天でしたが、お二人のさわやか演奏が梅雨のじめじめとした気分を吹き飛ばしてくれたようで、患者さんも手拍子をたたいたり、歌を口ずさんだりと楽しそうに演奏を聴いていらっしゃいました。

## 石井 修・石井英子コンサート

2015年8月20日 開催

【出演者】石井 修さま（テノール）・石井英子（ピアノ）



2006年より当院の演奏ボランティアとしてBGMタイムや緩和ケア病棟で演奏をしてくださっているテノール歌手の石井修さんと、ピアニストの石井英子さんご夫婦をお迎えしました。開演前に、当日が誕生日の患者さんのご家族からリクエストがあり、8月生まれの皆さん全員のお祝いとして、『Happy Birthday』の歌を届けてくださり、会場の皆さんと大合唱となりました。日頃から当院で演奏してくださっているお二人ですので、急なことでしたが快く引き受けてくださいました。また、アンコールでも会場の皆さんのご要望にお応えして井上陽水さんの「少年時代」を演奏していただきました。修さんの響き渡る歌声と英子さんのピアノのきれいな音色で会場全体が優しい雰囲気にも包まれる素晴らしいコンサートとなりました。最後に新病院長の山口先生と記念撮影、大盛況のうちに終了いたしました。

## いのちのしらべ

2015年9月17日 開催

【出演】鈴木重子さま（ヴォーカル）・Wong Wing Tsan さま（ピアノ）



2006年から毎年お越しいただき、ホスピタルコンサートの最多出演者である鈴木重子さんとウォン・ウィンツァンさんをお迎えしました。曲ごとに解説や思い出などをお話いただき、和やかなコンサートとなりました。ザ・ローズやアメージンググレイスなど、馴染みのある素敵な歌を沢山聴かせていただき、お二人のハーモニーがとても素晴らしかったです。アンコールの「ふるさと」では普段されているという発声練習を患者さんと一緒に行い、患者さんもととても楽しそうな様子でした。また、終演後にCD販売もしてくださり、CD一枚一枚にサインを入れてくださって、患者さんも笑顔でお帰りでした。お二人の優しく心に響く歌声やピアノが皆さんの心を癒してくださいました。

## より子スマイルコンサート

2015年9月17日 開催

【出演】より子さま（ヴォーカル&ピアノ）



2歳から5歳まで小児がんを患い、22歳で卵巣腫瘍が見つかった経験を持ち、2度の病気をきっかけに、改めて自分の命や使命を見つめなおしたより子さん。シンガーソングライターとして活躍され、がん研のホスピタルコンサートには6年ぶりにお越しいただきました。より子さんの歌とピアノで、「ほんとはね。」「川の流れるように」「Part of your world」など様々な曲を披露してくださり、力強くのびやかな歌声に会場全体が聞き入りました。「Home Party」では『音楽を鳴らそう』という歌詞に合わせ、手拍子足拍子をし、笑顔でリズムに乗っている患者さんの姿が印象的でした。ご自身も闘病生活を経験されたより子さんの熱いメッセージは、患者さんだけでなく、その場にいる多くの観客の心に響くものでした。会場全体が笑顔に包まれる、素晴らしいコンサートとなりました。

## 奈加靖子アイリッシュハーブコンサート

2015年11月19日 開催

【出演】 奈加靖子さま（ヴォーカル・アイリッシュハーブ）・永田雅代さま（ピアノ）



元タカラジェンヌでアイリッシュハーブ奏者としてご活躍の奈加靖子さん、ピアニストの永田雅代さんをお迎えしました。宝塚退団後、奈加さんがアイルランドへ留学して学ばれたアイリッシュハーブによるアイルランド民謡をたっぴりと演奏していただき、みなさまうっとりとして聴き入っているようでした。アイリッシュハーブを初めてご覧になる方も沢山いらっしゃいましたが、大変興味深くご覧になっていました。アンコールでは、宝塚歌劇団の名曲『すみれの花咲く頃』を披露していただき、楽しそうに口ずさむ患者さんやリズムをとる患者さんもうっしゃいました。奈加さんの優しい歌声とハーブの音色、永田さんのピアノの音色で会場にいらしたみなさまの心が穏やかになる素敵なコンサートとなりました。

## 松本 蘭クリスマスコンサート

2015年12月15日 開催

【出演】 松本 蘭さま（ヴァイオリン）・村松亜紀さま（ピアノ）



ヴァイオリニストの松本 蘭さん、ピアニストの村松亜紀様をお招きしてのクリスマスコンサートとなりました。2年半前にも一度お越しいただきましたが、優しくも力強いヴァイオリンとピアノの音色は、リハーサルから多くの患者さんやご家族の方を惹きつけ、本番でも満席となるほど大盛況のコンサートとなりました。お母さまが永年がん研で治療を受けられたいたこともあり、幼い頃からその様子を見ていた蘭さんからは患者さんだけでなくご家族にも温かいメッセージを寄せてくださいました。患者さんやご家族の方、そして、病院スタッフと共に、素敵なひとときを共有することができ、聞いている私たちを元気づけてくださいました。

## わたぼうし新春コンサート

2016年1月22日 開催

【出演】春風ひとみさま・前田清実さま・  
日比野啓一さま・柏木ナオミさま・河合篤子さま・藤山すみれさま・  
境田桃子さま (ピアノ)・玉置香織さま (バイオリン)・大下和人さま (サクソ)



2016年最初を飾っていただいたのは、元宝塚歌劇団娘役スター春風ひとみさんを中心にミュージカルで活躍される俳優の皆さまによる「わたぼうしコンサート」でした。始まる前から会場は熱気に包まれ、患者さんのワクワクした様子がこちらにも伝わってくるようでした。1曲目の「すみれの花咲く頃」では、出演者の皆さまが客席の通路まで降りてくださり、ミュージカルメドレーでも手拍子を交えつつ、会場が一体となって楽しむことができました。また「見上げてごらん」では、口笛のみでの演奏を披露していただき、その美しい音色に患者さんも聞き入っている様子でした。アンコールでは、患者さんにも馴染み深い「青い山脈」を皆さまと一緒に歌い、とても楽しいひと時を過ごさせていただきました。また次も観たい！楽しかった！！というお声をたくさん頂きました。

## 溝口 肇チェロコンサート

2016年3月17日 開催

【出演】溝口 肇さま (チェロ)・エミィ・トドロキ・シュワルツさま (ピアノ)



4度目のご出演となるチェリスト溝口 肇さんと、ピアニストのエミィ・トドロキ・シュワルツさんによるコンサートを開催いたしました。素敵な曲を沢山演奏して下さり、にこやかにリズムをとりながら聞かれる方、目をつぶってじっくりと聴き入っていらっしゃる方、それぞれにチェロとピアノの音色を楽しんでいらっしゃるようでした。ラストは溝口さんの代表曲『世界の車窓から』、この曲が流れると様々な思い出が甦ってくると、入院患者さんも感動の涙を流していらっしゃいました。溝口さんの優しいお話と心に染み入るチェロの演奏に、患者さんもお家族、職員にも癒しのひとときとなりました。

## 【BGM タイム】

- 開催日時：毎週火曜日（14:00～14:30）
- 場 所：1 階ホスピタルストリート
- 開催回数：37 回
- 対 象：患者さん、ご家族、面会の方



BGM タイムはホスピタルコンサートとは異なり、演奏ボランティアとして登録しているメンバーが交代で開催し、クラシックからポピュラー、映画音楽やミュージカルソングなど、様々なジャンルの曲を演奏しています。外来フロアには大勢の方がおられるため、大きな音量での演奏はなるべく避けて、マイクの使用やお座席の用意もありませんが、通りすがりに気軽に BGM 感覚で楽しんでいただける雰囲気コンサートとなっています。

## 【緩和ケア病棟ミニコンサート】

- 開催日時：毎週火曜日（14:45～15:15）
- 場 所：12 東緩和ケア病棟デイルーム
- 開催回数：37 回
- 対 象：緩和ケア病棟の患者さん、ご家族、面会の方



BGM タイムでの演奏を終えた演奏ボランティアのメンバーが、緩和ケア病棟でもミニコンサートを開催しました。このコンサートは入院患者さんのお食事を作っている栄養管理部の協力を得て、ボランティアわかばのメンバーによるティーサービスも合わせて開催されるため、患者さんやご家族、面会の方も楽しみにしてくださっています。病状の優れない患者さんはベッドのまま、または車椅子でデイルームにお越しくださることもありますし、演奏を聴いて色々な想いが込みあげてくるご家族もいらっしゃいます。

### 【月別の開催回数】

開催回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
BGMタイム	3	3	3	4	3	3	3	2	3	2	4	4	<b>37</b>
ミニコンサート	3	3	3	4	3	3	3	2	3	2	4	4	<b>37</b>

BGM タイムとミニコンサートでは、ピアノの音色や歌声に導かれるように自然と患者さんやご家族、面会の方が集まって来られます。演奏ボランティアのメンバーが工夫を凝らして一緒に歌えるような曲を準備したり、リクエストにお応えしたり…皆さんの笑顔に、演奏するボランティアのメンバーも逆にパワーをいただきました。BGM タイムとミニコンサートは、昨年度まで毎週火曜日と金曜日の週 2 回開催しておりましたが、外来で受診される患者さんの人数や付き添われるご家族も増え、コンサート開催に対して様々な意見が寄せられること、またコンサートをサポートする職員やボランティアわかばのメンバーの確保など、安全な運営体制が整わないことから、残念ながら週 1 回、火曜日だけの開催となりました。

## 2. ボランティアわかばの活動のご報告

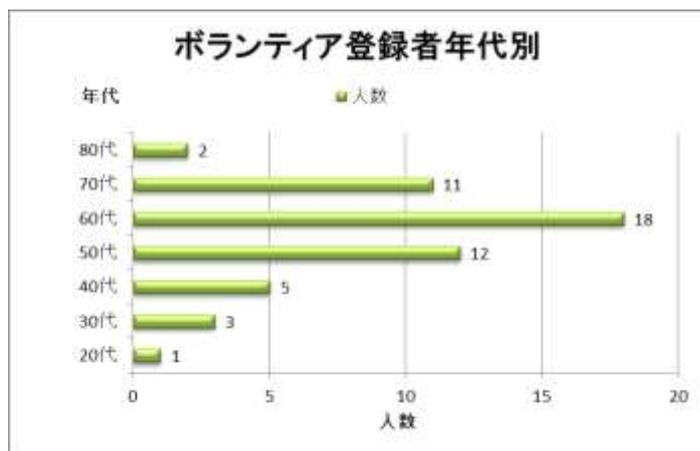
「ボランティアわかば」誕生 10 周年の記念すべき一年、これまで様々な活動を実施して参りましたが、わかばのメンバーが主体となって活動している「図書」「ソーイング」「折り紙を楽しむ会」の他、外来医事のサポートの「外来案内」、緩和ケア病棟のサポートの「お茶会」の活動も安定して実施されるようになり、患者さんやご家族、職員への活動も認知されるようになりました。また、コンサートサポートや季節ごとのイベントとして「端午の節句」「七夕」「クリスマス」「桃の節句」など、ボランティアのメンバーの素敵なアイデアで院内に季節の風を届けて、患者さんやご家族に沢山の笑顔をお届けすることができました。



### 登録メンバーの活動参加状況

①登録者数：52名（男性：7名、女性：45名） 新人ボランティア4名登録

②登録者年代：平均年齢 59.8 歳



学生さんからお仕事を定年退職された方、子育てが一段落ついた方など様々な年代の方にご参加いただいております。

お孫さんの誕生や親御さんの介護などで活動を休止される方、年齢に伴って活動への参加が遠のかれた方もいらっしゃいますが、年齢の隔たりを超えて同じ目標に向かって一緒に活動できるメンバーがいることは、とても心強いというご意見も寄せられています。

③登録者住所：都内在住の方が約 9 割

都道府県	東京都	埼玉県	神奈川県
人数	46名	4名	2名
%	88%	8%	4%

(都内の内訳)

※病院と同じ江東区にお住まいの方が 1/3

区	人数	区	人数	区	人数	区・市	人数
江東区	18名	渋谷区	2名	港区	1名	豊島区	1名
世田谷区	5名	板橋区	2名	目黒区	1名	葛飾区	1名
大田区	4名	江戸川区	2名	杉並区	1名	調布市	1名
品川区	4名	墨田区	2名	中央区	1名	—	—

④病院までの所要時間：東日本対震災以降、ご自宅から病院までの交通ルートの確認の意味も含め、所要時間をお知らせいただいています。ご自宅からの距離が近い方ほど、活動への参加回数も多く、定期的にご参加いただいています。参加を継続するには、自宅からの距離や所要時間、通いやすさもポイントとなります。

所要時間	30分まで	30～60分	61～100分	100分以上
人数	22名	19名	9名	2名

⑤当院での治療歴：治療歴なし（31名）、治療歴あり（21名）※治療歴ありは健診を含む

2014年より活動要件に治療中の患者さん、ご家族のボランティア参加規程が設けられました。患者さんの場合は治療後3年経過、また、がんでご家族を看取られたご遺族の場合は3回忌を終えてから（看取ってから2年以上経過してから）の方お願いしています。ご自身の心と身体のバランスを保つため、より良い活動を実施するためにも、最低でもこの位の期間が必要だと、医師や看護師などの専門スタッフとも協議の上、募集の際にもこちらの要件をお知らせしています。

⑥活動時間数：安定した人数での活動が実施できるようになって参りましたが、例年同様に新人さんの受け入れ時期、活動更新手続きの時期には参加される方が多く、暑さ寒さなどの天候によっても参加状況が様々です。

※活動率は月1回以上の参加で計算

月	活動実日数	活動延人数	活動総時間数	平均活動時間数	実活動者数	1日平均活動者数	活動率(%)
4月	20	116	449:30	3:52	43	5.80	89.58
5月	16	104	421:15	4:03	44	6.50	84.62
6月	22	137	547:23	3:59	47	6.23	90.38
7月	22	135	529:38	3:55	45	6.23	88.24
8月	15	95	351:29	3:42	41	6.33	80.39
9月	18	108	500:50	4:38	44	7.39	86.27
10月	21	121	459:51	3:47	43	5.76	84.31
11月	19	123	495:19	4:01	44	6.47	86.27
12月	17	115	502:44	4:22	42	6.76	82.35
1月	13	76	294:09	3:52	39	5.85	76.47
2月	20	101	395:02	3:54	41	5.05	80.39
3月	22	133	515:01	3:52	44	6.05	86.27
計/平均	225	1,364	5,462:11	3:59	43.1	6.20	84.63

☞ 参加日数：40日以上（13名）、30日以上（8名）

★最高81日

☞ 参加時間数：300時間以上（2名）、200時間以上（3名）

★最高374時間

☞ 参加条件（月2回以上の参加）：半数の方はクリア

参加時に記入していただく活動記録 IN/OUT の時間より計算しておりますが、ご自宅で活動準備や作業をしてくださる方もいらっしゃいます。実際には数字よりも多くの時間を活動に割いていただき、感謝しております。患者さんやご家族にご迷惑がかからないように、安定した活動を実施するため、お名前の登録のみの方はご遠慮いただき、最低でも月2回以上のご参加をお願いしております。

## 新人ボランティア募集・説明会・オリエンテーション

ボランティア応募状況は、豊洲に大学病院も誕生し、東京オリンピック開催に向けて、同じ江東区内でも様々なボランティア募集が行われているため、がん研のボランティア活動にご応募くださる方の人数が前年に続いて減少傾向にあります。ボランティアと言っても、イベントボランティアのように、その時だけ気軽に楽しく参加できる活動ではなく、がん専門病院における患者さんご家族に対する活動となりますので、その自覚と責任感を持って積極的に活動にご参加いただける方をメンバーとしてお迎えしたいと考えています。ボランティア参加を希望される方は、説明会と個別面談を経て、志望して下さった動機やご本人の適性など医師や看護師、活動で関わる部署のスタッフの意見も踏まえて、慎重に選考させていただきました。以前に比べると人数が不足しているように感じられますが、お名前だけの方や一時的な参加の方もいらっしゃいましたので、実働人数としては大きな差は出ておりません。

「ボランティアには、ボランティアを呼ぶ力がある」と言われますが、ボランティアの皆さんが、同じ価値観を持った方にお声をかけてくださり、またその知り合いを呼んで良い輪が広がっていけば、志しの高いメンバーが集まってくださり、質の良いボランティア活動が実施できると思います。

### 【ボランティア募集要件】

- ① 18歳以上の方（高校生不可）、活動開始時の年齢が65歳位までの方
- ② 当院のボランティア活動の趣旨にご理解、ご協力をいただける方
- ③ 原則週1回（最低月2回以上）、1日2時間以上の活動を6ヶ月以上継続できる方
- ④ 体力に自信があり、2時間の立ち作業ができる方
- ⑤ 活動に支障なく心身ともに健康である方（患者さんの参加は治療後3年以上経過、要相談）
- ⑥ ボランティア保険に自己負担でご加入いただける方
- ⑦ 説明会、面談、研修会に参加できる方

【募集期間】 3月2日（月）～4月13日（月）

【募集媒体】（Web）がん研 Web サイト・東京ボランティア市民活動センター・  
Yahoo ボランティア・日本財団 CANPAN

（広報誌）江東区ボランティアセンター「ボランティアだより」

中央区社会福祉協議会「ボランティア区民活動センターだより」

（掲示） 院内掲示板、江東区社会福祉協議会掲示板、有明地区マンション掲示板

【説明会】 4月14日（火）14:00～16:00

【個別面談】 4月15日（水）～4月30日（木）の期間中

【研修会】 5月14日（木）10:00～17:00



説明会にはご応募いただいた11名の方うち、9名の方にお越しいただきました。例年に比べて応募人数も非常に少なくなりましたが、説明会後の個別面談では、病院の活動趣旨を理解して下さっているか、数あるボランティア活動でも、なぜがん研のボランティア活動を希望されるのか、ご本人のご希望もしっかりと伺いして、活動を安心してお任せできると判断できた、志し高い4名の方を新たなメンバーとしてお迎えしました。

その後は、新人ボランティアのオリエンテーションを行い、病院ボランティアとしての心構えや約束ごと、活動参加にあたってのルールを説明しました。

## ボランティア研修会・トレーニング



オリエンテーション終了後は、先輩ボランティアのメンバーや演奏ボランティアのメンバーも参加して年に一度のボランティア全体の研修会を行いました。

4月に就任した清水看護部長兼院長補佐より、病院を代表してのご挨拶とボランティア活動に期待することをお話いただきました。看護部長からは看護学生や外部の方から「がん専門病院と言っても非常に明るくて爽やかな雰囲気ですね！」と言われることが多いこと、これはボランティアさんの様々な活動によるおかげだと、感謝のメッセージが伝えられました。先輩ボランティアにとっては活動への励みとなり、新人ボランティアにとっては新たに参加することへの期待が膨らんだようです。



続いて、ボランティア支援室の櫛山室長からはがん研究会や病院の近況報告、新棟の概要についての説明があり、翌年1月には新棟がオープンすることもボランティアさんに発表されました。

各部署から専門職スタッフの講師による講義となり、活動にご参加いただくにあたって、ボランティアの皆さんに最低限身につけていただきたい内容として、下記の講義を受けていただきました。

- ①患者さんとの接し方（患者相談室/吉田師長）
- ②感染対策について（院内感染対策部/井田副師長）
- ③緩和ケアについて（緩和ケア認定看護師/河島看護師）
- ④食品衛生について（栄養管理部/中濱副部長）
- ⑤個人情報保護について（総務部/野本総務課長）



講義で繰り返し説明を受ける点は特に重要なこと、ボランティアさんの行動によっては、病院の信頼が損なわれる可能性があること、信用問題に繋がることをしっかりと自覚していただきました。

その後、図書活動や外来案内、車椅子講習会やコンサート開催時のサポートなど、患者さんとの距離感が徐々に近くなるように組まれたトレーニングプログラムに沿って、30時間のトレーニングを受けていただき、8月には新人ボランティア4名全員がわかばのメンバーとして正式に登録、ボランティアのシンボルマークのピンバッチをつけて先輩ボランティアと一緒に活動しました。



また、ボランティア支援室に兼務として配属になった事務部門の新入職員4名も職員研修の一環として、新人ボランティアメンバーと同様にボランティア研修会やトレーニングにも参加しました。

社会人一年目で本務の業務に加えて、ボランティア支援室の業務も覚えなければならない新入職員にとって、ハードな面もあると思いますが、ボランティア活動に参加する時間は通常の業務では経験できないような貴重なものとなっているはずですが、活動にお越しくくださるボランティアさんの姿勢や活動を通じて人生の大先輩であるボランティアさんとふれあうことで、新入職員にとっても学ぶことも多く、がん研の職員として、「患者さんやご家族のために…」という気持ちや、「人の役に立つ喜び」を感じ取り、今後の社会人生活で役立てて欲しいと願っています。



### 図書（月～金曜日：午前・午後）



図書活動は、病棟と外来と全フロアに本棚を配置して、沢山の患者さんやご家族の目に触れる活動となっています。最も多くのメンバーの方に携わっていただいていることから、毎日の活動での引継事項を記載できるように活動記録のノートを活用し、メンバーで情報共有できるようにしています。ボランティアさんの発案で図書活動への提案、意見交換ができようと提案用紙も作成し、作家別見出し版もボランティアさんが自主的に作成してくださり、整理がしやすい環境になって参りました。

また、ここ数年のボランティアチャリティーSHOP や活動での寄付金も集まったことから、病棟の本棚を一新して、外来に設置している安定感のあるブックトラックを 10 台購入しました。患者さんやご家族にとっては見やすく、そして、ボランティアのメンバーにとっても活動しやすい本棚が整備されました。本棚購入時に不足した金額は緩和ケアセンター医療連携部の唐渡敦也先生が研究費から補助してくださいました。

寄贈者数	寄贈本合計	処分本（割合）
507 名	7,572 冊	771 冊 (10.18%)

### ソーイング（水曜日：午前・午後）



年々、お裁縫やミシンが得意なボランティアさんが少なくなり、真っ直ぐならミシンで縫える、という方は数名いらっしゃいますが、型紙をおこして、個別のオーダーにも応えて特注品の製作ができるソーイングメンバーは、たったお一人となってしまいました。感染対策上の問題もあり、布製品の利用頻度も徐々に減少しているようで、病棟への払い出し数も減ってきていますが、一つずつ丁寧に作製しています。作製した布製品（尿パッカカバー・ドレーンポシエット・特注品）は、年間 108 点を病棟へ払出しました。

【払出状況】

病棟	尿瓶キャップ	尿パッカカバー	ドレーンポシエット	特注品	内容
外来				6	タオルケット・バスタオルほつれ修理
ICU				6	車椅子用ポケット
5東	1,076	6			
5西	30				
6東	71			10	アイスノンカバー
6西	10				
7東	90		5		
7西	100	5	10	4	スネイククッションカバー、ほつれ修理
8東	75				
8西	60		8		
9東					
9西				1	スネイククッションカバー
10東	210			2	デジカメケース
10西					
11東	160			6	スネイククッションカバー、ポンプカバー修理
11西	70	5		14	スネイククッションカバー、湯たんぽカバー等
12東	69	5			
12西		15			
計	2,021	36	23	49	
合計	2,129				

## 折り紙を楽しむ会（木曜日：午後）



メンバー3名で年間46回開催し、過去最高の320名の患者さんやご家族に折り紙の作品づくりを楽しんでいただきました。折り紙の活動の開催日や退院後も参加したいとお申し出をいただくほど好評の活動となっています。きっとメンバーが心から折り紙を楽しんでいる姿が参加される患者さんやご家族にも共感を呼び、とても和やかな雰囲気楽しく活動している様子が参加される皆さんの笑顔から伝わってきます。折り紙を楽しむ会のメンバーのチームワークの良さ、素晴らしいアイデアと繊細な技術には、本当に頭が下がります。活動は患者さんが8階のイルームに手ぶら

でお越しただいても大丈夫なように、毎週メンバーが交代で様々な折り紙の作品を用意して、材料や下準備をご自宅でして来ています。緩和ケア病棟のデイ ルームや中庭の窓には、季節感あふれる作品を飾りつけ、患者さんやご家族だけでなく、スタッフまでもが作品を見て癒されています。

また、婦人科病棟師長からの依頼で、入院中の女性をご自宅に残してきたお子さんのために何か作りたい、と折り紙でミッキーマウスを作ったり、帰りを待ちわびているお子さんに頑張ったご褒美としてプレゼントできるようにとミッキーのメダルを作って、最後の一折は患者さんご自身でできるように、折り方の説明書や材料まで丁寧に準備して、患者さんの元にお届けしました。折り紙の活動を通じて、患者さんの心に残る思い出づくりをお手伝いすることができました。

（緩和ケア病棟デイルーム・中庭に展示された折り紙作品）



## 外来案内（月～金曜日：午前・午後）



外来医事のサポートとして活動を始めて5年経ちました。当初、医事部のスタッフだけで対応していた外来案内も、ボランティアのメンバーがお手伝いするようになり、今までより患者さんに対して親切に、そして更に丁寧な対応ができるように変化してきたというご意見もいただきました。ボランティアのメンバーがスタッフと一緒に患者さんへのご案内をしたり、ご質問の一次対応をメンバーが引き受けるようになったり、呼出受信器のPHSの消毒や受付機、精算機の清掃までボランティアのメンバーが気持ちよく笑顔で対応してくれるお蔭で、医事や総合案内のスタッフ、看護師

にとっても良い刺激となっています。院内のご案内をするには、院内MAPを把握しておく必要もありますし、様々なご質問を受けることも多いため、外来案内を担当するメンバーの中にはMyノートにQ&Aを作成して患者さんやご家族、面会の方の対応にあたってくださる方もいらっしゃるほどで、非常に心強い存在です。「ボランティア」の名札にエプロンをつけていても、来院される患者さんやご家族の目には病院スタッフとして映ることも多く、検査結果の用紙を見せられて様々なご質問を受けたり、感謝の言葉だけでなく、時には厳しいお声をいただくこともあります。緊張感があるやりがいの多い活動となっています。

## お茶会（毎週火曜日：午後）

緩和ケア病棟でティーサービスを実施するお茶会の活動は、演奏ボランティアによるミニコンサートと合わせて開催します。この病棟に入院されるのは深刻な状態の患者さんが多いため、病棟スタッフとのコミュニケーションも非常に重要になっています。病棟から夏祭りやハロウィン、クリスマスなどのイベントをお茶会の開催に合わせて一緒にできないかと依頼がありますので、開催日程を病棟スタッフや入院されている患者さんやご家族にも予めお知らせしています。皆さん楽しみにお待ちくださっていますので、担当メンバーには急な欠席で活動が中止となり、楽しみにされていた患者さんやご家族の期待を裏切ることにならないように、また、一部のメンバーだけに負担がかかり過ぎることのないようメンバー同志で参加スケジュールの調整をお願いしておりますが、安定した開催できるようにするために今年度からは週1回火曜日みの開催といたしました。また、「ボランティアだから仕方がない…」という甘えが出ないように、緩和ケア病棟でのボランティア活動であることに自覚を持って活動に臨んでいただきたい、という病棟スタッフや臨床心理士の意向も伝え、スタッフとボランティアとが互いに歩み寄ることでより良いお茶会ができるように心掛けています。



(お茶会開催記録)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
月間開催数	3	3	3	4	3	3	3	2	3	2	3	4	36
わかば参加人数	11	12	9	13	10	11	10	7	11	8	9	15	126
ミニコンサート開催数	3	3	2	4	3	3	3	2	3	2	3	4	35
患者さん人数	31	31	26	41	32	32	24	23	26	24	24	53	367
ご家族・面会者人数	32	45	36	28	36	31	33	16	33	32	38	62	422

## コンサートサポート



有明移転 10 周年を記念してのホスピタルコンサートには、大変豪華なアーティストの皆さまにお越しいただき、沢山の方にご覧いただきました。患者さんやご家族に安心してコンサートをお楽しみにいただけるよう、安全第一で職員とボランティアメンバーと一緒にコンサート運営を行い、会場全体を見渡して、入院患者さんや輸液ポンプや車椅子を使用されている患者さんに事故がないよう注意しました。素敵な演奏を聴いて、患者さんやご家族だけでなく、ボランティアのメンバーも職員も癒されました。

また、BGM タイムや緩和ケア病棟ミニコンサートは、同時開催のお茶会担当のメンバーがサポートして、音楽を通じて患者さんやご家族に治療に立ち向かう勇気や希望を届けています。

## 室内作業（月～金曜日：午前・午後）



活動の拠点となっているアクアコート5階のボランティア室では、各活動時間帯（午前 10:00-12:00/午後 3:00-16:00/コンサート 16:00-18:00）の活動開始前 10 分前よりミーティングを行い、活動参加に際しての大切なお知らせや注意していただきたいこと、患者さんやご家族からのご意見などをお伝えしています。また、毎週活動に参加される方ばかりでなく、2週間に一度のペースの方や活動への参加が久しぶりの方もいらっしゃいますので、参加にあたっての情報共有は非常に重要となります。掲示板に貼ってあるインフォメーションの内容や各グループの活動ファイルの連絡事項

は必ずご確認くださいようお願いしています。

ボランティアの受け入れ体制が整ってちょうど5年経ちましたが、古くから活動されるメンバーの方には活動参加のルールが厳しいと感じられることも、新人ボランティアさんからは、「様々なルールがあるのも、ボランティアメンバーが安心して活動できるようにするために病院側が配慮してくださっているのですね」と気付いてくださる新人のボランティアさんが増え、非常に心強い存在となっています。

室内作業では、各グループ活動が円滑に進むように室内環境の整備をしたり、陰ながら事前準備をしたり、ボランティア室への訪問者や電話対応なども積極的にしてくださったり、患者さんやご家族に直接関わる活動ではないことでも快く、さりげなく引き受けてくださる姿勢はボランティアの鏡です。



### 【尿瓶キャップづくり】

年間で 2,021 個を病棟へ払い出ししました。過去最高の数となりました。端切れの生地と BOX ティッシュの空箱の厚紙を再利用して作成していますが、昨年度よりも 700 個以上多い払い出し数となったため、生地や厚紙は病院スタッフにも呼びかけて集めています。



### 【エプロンのアイロンかけ】

地下 1 階のリネンセンターに洗濯に出しているエプロンですが、こちらはリネン業者ワタキューセイモア様のご好意で洗濯をしていただいています。アイロンかけはボランティアのメンバーの発案で、患者さんの前に立つときには清潔感があるようにと一枚ずつピシッとアイロンをかけています。



### 【ペットボトルキャップの回収】

施設管理課が「世界の子どもたちにワクチンを提供する活動」に協力していることから、ボランティア室でも回収 BOX を置いて協力しました。今年度は年間で 6 kg 分（約 1,200 個）のキャップを集めました。キャップ 800 個で一人分のワクチンが購入でき、世界の子どもたちのために使われました。



### 【古切手の回収】

職員やボランティアのメンバーから古切手を有効活用できないか、という提案で、3 歳以上 18 歳未満の難病と闘うお子さんたちの夢を叶えるお手伝いをしている国際的なボランティア団体『メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン』に古切手を寄贈しました。財団東京本部からはお礼状や会報が届き、集めた古切手がお子さんたちの夢の実現に少しでも役立っている様子が伺えました。

## イベント

季節感を味わっていただけるように、ボランティア支援室で様々なイベントを企画し、ボランティアわかばのメンバーだけでなく協力企業さんにもお力を貸していただきました。季節ごとに院内を温かな雰囲気にして、多くの患者さんやご家族、そして職員にも癒しの空間を届けています。通常の活動とは異なり、イベント毎にメンバーが力を合わせて活動し、ボランティアのメンバーにとっても達成感に繋がっています。

### ■端午の節句（4/20～5/7）

1階ホスピタルストリートに五月人形を飾り付けました。前年までは院内3カ所に飾り付けをしていましたが、五月人形や兜、屏風の劣化が進み、一カ所のみでの展示をなりました。オルゴール機能が付いているため、時折ぜんまいを回して、『屋根より高い鯉のぼり～♪』の曲を流しました。軽やかな音色に足を止めてご覧くださる患者さんやご家族が大勢いらっしゃいました。



### ■七夕笹の設置（7/1～7/8）

帝都典禮株式会社様のご協力で大きな笹を2カ所設置し、ホスピタルストリート中央に素敵な七夕コーナーを設置しました。がん研の公式キャラクターかにこちゃん短冊を2,500枚作成して、沢山の方に願いごとを書いていただき、期間中に1,850枚の短冊が笹に結びつけられました。短冊は総勢15名のメンバーで一枚一枚、丁寧に笹から外して、思いが沢山詰まった願いごとを読み、目頭が熱くなりました。



### ■七夕短冊のお焚き上げ（8/6）

短冊に書かれた皆さんの願いごとが叶うように、江東区門前仲町にある富岡八幡宮にお焚き上げを依頼しました。例年はお参りだけですが、今年は病院が有明に移転して10年ということもあり、ボランティア支援室にこれまで寄贈していただいたお人形も一緒に供養しようと、宮司さんによるお祓いもしていただきました。職員とボランティアのメンバー全員で手を合わせてきました。



### ■クリスマスカードづくり（9月～12月）

がん研公式キャラクターかにこちゃんの誕生を記念して、クリスマスカードにも“サンタかにこちゃん”のデザインを使用したカードを作成しました。毎年、担当の先生や看護師がこのカードにメッセージを書いて入院患者さんにお渡ししますが、今年は7月に病院長に就任された山口先生からのメッセージが上半分に書かれています。枕元に飾っていただけるように立体的なカードにしました。



### ■クリスマスツリー展示（12/1～12/26）

平安祭典様のご協力で1階ホスピタルストリートの中央に大きな生のもみの木のクリスマスツリーを飾り付けしていただきました。冬場で院内も乾燥しているため、平安祭典様よりもみの木への水やりの方法も教えていただき、期間中、多くの患者さんやご家族にクリスマスの雰囲気を味わっていただきました。



■ ボランティアチャリティーSHOP (12/4)

今回で6回目の開催となったSHOPでは、活動10周年の記念の年ということもあり、新しい手作りの品物も増え、例年よりも更に豪華な品物が並び、過去最高の出品数となりました。SHOP担当メンバーも新しい方が加わり、また、違った工夫もみられました。毎年のこのSHOPを楽しみにして下さる患者さんもいらっしゃるようで、秋頃から開催お問い合わせをいただくほどとなりました。

お買い上げくださった皆さま、ありがとうございました。

(\*売上: 471,200円 \*来客数: 315名 \*出品数: 1,710点 \*販売数: 1,248点)



■ サンタクロース訪問イベント (12/24)

入院患者さんのもとへクリスマスカードとハンドタオルのプレゼントを届けにサンタクロースが訪問しました。男性のメンバーが少ないため、名誉院長の武藤先生と施設管理課の千島技士長にもサンタになっていただき、病棟の看護師と一緒に病室をお邪魔しました。笑顔あふれる素敵なひとときとなりました。



■ 桃の節句 (2/19~3/9)

ひな人形七段飾りを1階ホスピタルストリートに展示しました。最近ではご自宅でもひな人形を飾らないという方も多いようで、男性の患者さんも飾り付けをしている段階からニコニコとお声をかけてくださり、記念に写真を撮りたいという方もいらっしゃいました。この七段飾りは、36年前のものですが、大事に保管して、これからも皆さんに楽しんでいただきたいと思います。



イベント開催にご協力いただいた企業さまのご紹介

■ 七夕笹の提供、飾り付け

(帝都典礼株式会社の皆さま)



■ クリスマスツリーの提供、飾り付け

(日本サービスセンター平安祭典の皆さま)



榮木実枝前看護部長退任にあたって…



5年間、看護部長をされた榮木さんが2015年3月に退職されました。ボランティア活動に対しても常に心を配ってくださり、榮木さんが看護部長としてがん研に来てくださってから、活動中に看護師から挨拶や労いの言葉をかけてもらうことも増えました。ボランティアのメンバーも心地よく活動することができるようになり、モチベーションUPにも繋がりました。榮木さんへ感謝の気持ちを込めて、メンバーが作成したがん研のロゴ入りグッズをプレゼントいたしました。

### 3. 外部ボランティア受け入れのご報告

企業や外部団体からボランティア活動参加へのお申し出をいただく機会が増えております。企業では社会貢献活動（CSR）の一環として社員をボランティア活動に参加させたり、学校では高校生や大学生に授業の一環としてボランティア体験をさせたり、または患者さんを支援する団体から様々なお申し出をいただくこともあり、非常にありがたく思っております。しかし、演奏ボランティアやボランティアわかばのメンバーと同様、がん専門病院での活動であるため、お申し出をいただく企業や学校、団体のボランティア活動に参加したいというお気持ちと、患者さんのニーズがマッチしているかどうか、治療を受けられる患者さんやご家族が安全に安心した状態を保てるか、病院側の受け入れ体制が整っているかなど、慎重に判断させていただいております。これらの条件がクリアできると患者サービス委員会で判断された場合には、活動へのご協力をお願いしております。

#### スヴェンソン様カットボランティア

[1月19日開催]



永年、ご協力いただいているスヴェンソン池袋サロンの美容師の皆さんが、サロンの休日を利用して真冬の寒い時期に訪問してくださいました。

入院中でなかなか髪の毛をカットできない患者さんのため、カットやシャンプーを無償でしていただいておりますが、最近では入院患者さんの平均入院日数も2週間以下となり、また院内に美容室も設置されているため、希望される患者さんの人数が減少してきております。

また、安全面を考慮して、カットボランティアの利用条件も下記の通り、スヴェンソン様と取り決めを行い、看護部の協力のもとで実施しております。

#### 【カットボランティア利用条件】

- ①前かがみの体勢が可能な患者さんのみ、受付してください。
- ②術後患者さんや頸部頭部に創部がある方、管をつけている方はお受けできません。
- ③車椅子使用、介助が必要な方は、必ず看護師同席のもとでお願いします。
- ④洗髪用シャンプー・リンス・タオル2枚は、患者さんに持参をお願いします。
- ⑤髪染め、髭剃りは、対応できません。
- ⑥ヘアスタイルの要望が高い方は、店舗でのみ対応となるため、お受けできません。患者さんへのご説明とご理解をいただけるよう、申込時に必ずお伝えください。

#### 【カットボランティア利用者数】

年	月	人数
2012年	1月	24名
	7月	23名
2013年	1月	26名
	7月	19名
2014年	1月	22名
	7月	23名
2015年	1月	16名
2016年	1月	14名

【洗髪室でのカットの様子】



## 4. ボランティア活動 10 周年記念の会のご報告

有明移転 10 周年となった 2015 年、ボランティア活動にとっても活動開始 10 周年を迎えた記念すべき一年となりました。がん研ボランティアの歴史は、大塚時代の 1980 年から図書の貸出活動がスタートいたしました。有明への移転と共に院内ボランティアグループ「ボランティアわかば」が誕生したほか、コンサートの開催、協力企業によるご支援など、様々なボランティア活動の輪が広がりました。

これを記念して 9 月 10 日に 10 周年記念の会を開催いたしました。これまで多くのボランティアの方、並びに関係者の方のご協力により、患者さんにご家族のために様々な活動が実施できたことに、病院から感謝の気持ちをお伝えしたいと、ボランティア活動にお力をかしてくださった方を代表して 150 名の方をお招きして、がん研幹部スタッフも一同に集まっての記念の会となりました。

### 第 1 部：講演会

第 1 部は名誉院長の先生方による講演会を吉田富三記念講堂にて開催いたしました。

まず『がん研病院 80 年の歴史』というテーマで、2014 年に開院 80 周年を迎えたがん研の歴史を振り返り、病院で活動されるボランティアの皆さんに、もっとがん研のことを知っていただき、より一層ご理解をいただけるように、勤続 42 年を迎えられた名誉院長、中川先生に講演をしていただきました。



(名誉院長 中川先生)

続いて『がん研のボランティア活動』というテーマで、東大病院でボランティア活動を立ち上げたメディカルディレクターで名誉院長の武藤先生より、大塚時代から続く図書ボランティアの活動に加えて、ボランティアの輪を広げようと病院スタッフにも働きかけて、「ボランティアわかば」を立ち上げ、コンサートの開催なども行ってきた、これまでのがん研ボランティアの活動のあゆみと、今後のボランティア活動に期待することをお話いただきました。



(MD/名誉院長 武藤先生)

### ミニコンサート

第 2 部開催に先立ち、講堂前ホワイエで 記念撮影とミニコンサートを行いました。コンサートは、演奏ボランティアとして 2006 年より、ホスピタルストリートでの BGM タイムや緩和ケア病棟でのミニコンサートで、とても穏やかに温かな演奏を届けてくださっている長尾ファミリーの皆さんによる歌とピアノお楽しみいただき、続いてセミナー室にて懇親会を行いました。



(演奏ボランティア長尾ファミリーの皆さんによるコンサート)

## 第2部：懇親会

### 【懇親会 式次第】

1. 開会の挨拶（櫛山ボランティア支援室長）
2. 挨拶（山口病院長）
3. 感謝状・記念品贈呈挨拶
4. 挨拶（ボランティア代表）
5. 永年活動者紹介
6. ご来賓紹介
7. 乾杯（門田名誉院長）
8. 食事・歓談
9. 新棟建設・近況報告
10. ボランティアわかばより寄付金贈呈
11. 抽選会（太田経営本部長）
12. 中締め（野田研究所長）



（病院長 山口先生より感謝状贈呈）



（大塚時代からの永年活動メンバーへ記念品贈呈）

当日は、鬼怒川の氾濫が起こる大豪雨となり、欠席される方もいらっしゃいましたが、悪天候の中、大勢の方にご出席いただきました。有明移転と同時に活動をスタートして10年間活動を続けてくださったボラン

ティアさんは現在4名、また、大塚時代から活動を続けてくださった永年活動者のボランティアさんも4名いらっしゃいます。

ボランティアコーディネーターの私も、これまで様々なボランティア活動に携わって参りましたが、活動を永く続けることは、決して容易なことではありません。時には甘えや傲りが出ることもあるかと思いますが、「ボランティアだからこそ責任感が必要」というしっかりとした信念をお持ちの方が、これまでがん研のボランティアを支えてきてくださったと感じました。

この10周年を一緒にみんなで祝いしようと、先生方や幹部スタッフも集まり、またこれだけ沢山のボランティアの方が集まるチャンスはなかなかないため、お食事をしながら、話しも弾み、楽しいひとときをお過ごしいただくことができました。

また、これから次の10年、20周年に向けて、がん治療と向き合われる患者さんとご家族のために、どのようなことが喜んでいただけるのか、私たちボランティアが何をして差し上げることが良いのかを考えながら、ボランティア活動を続けていきたいと考えています。今後もどうか皆さんのお力を貸してください。宜しく願いいたします。



（名誉院長 門田先生による乾杯）



（ボランティアわかばより太田経営本部長へ寄付金贈呈）



### 【10周年記念品】

- ①がん研ロゴ入りオリジナルトートバッグ
- ②10周年記念誌
- ③感謝状
- ④クリアファイル2枚組
- ⑤金平糖



（野田研究所長による中締め）

## 5. 交流会・懇親会のご報告

患者さんやご家族に、より良いボランティア活動をお届けするためには、同じ目標に向かって活動するボランティア同志の繋がりや病院職員との相互理解がとて重要になります。2011年より毎年、交流会や懇親会を開催しておりますが、活動10周年の節目に登録されているボランティアのメンバーの皆さんにお伺いしたアンケートからも、このような機会にボランティアと職員が親睦を深めることは活動へのモチベーションUPにも繋がっている、というご意見を多数お寄せいただきました。なかなか顔を合わせるチャンスのない幹部スタッフも参加して、日頃のボランティア活動に対して感謝の気持ちをお伝えしました。

### 新人ボランティア交流会

[5月14日開催]



新人ボランティアのメンバーを温かくお迎えしようと、オリエンテーション、研修会終了後に交流会を開催しました。先輩ボランティアとボランティア支援室に兼務として配属された新入職員も出席して、自己紹介やボランティア活動への意気込みをお話ししていただきました。

一日の研修を終え、お茶とお菓子でホッと一息つきながら、先輩ボランティアからは、参加している活動の紹介や折り紙の活動で作成した作品のプレゼントもあり、緊張ぎみの新人ボランティアのメンバーも笑顔になっていました。

### 暑気払い

[8月6日開催]



七夕短冊の奉納後、ボランティア支援室の櫛山室長や兼務となった新入職員も参加して、テレビ番組でも紹介された深川めしで有名な「門前茶屋」にて暑気払いを行いました。

江東区の観光ガイドもされているボランティアわかばのメンバーの紹介で3年前よりお邪魔しているお店ですが、美味しいお食事に、10名以上の参加で日本酒「八海山」までサービスしていただけるという特典がついて、お酒を飲みながら美味しいお料理を食べて、楽しい時間を過ごすことができました。

### クリスマス会&納会

[12月24日開催]



年内のボランティア活動の最終日、クリスマスイブに開催したサンタクロースの病室訪問終了後には、ボランティア室でクリスマス会を行いました。名誉院長の武藤先生もお越しくださり、ケーキとお茶やお菓子でささやかではありますが、皆さんと一緒に祝いしました。活動開始10周年の節目となった2015年の活動最終日に、がん研のボランティア活動を築いてくださった武藤先生にお越しいたいて、貴重なお話を伺うことができたことは大きな喜びとなりました。新年も更に頑張ることを誓い、メンバーがとてもいい笑顔が印象的でした。

## 6. 活動費、募金・寄付のご報告

①ボランティア活動費（年間：700,000円 + 前年繰越金 9,558円）

コンサート、ボランティアわかば、外部団体の受け入れを限られた予算で運営し、活動別で下記の支出となりましたので、ご報告いたします。

ボランティア支援室 平成27年度活動費報告					
(単位:円)					
区分	活動別	予算	支出	差額	備考
コンサート	ホスピタルコンサート BGM・ミニコンサート	50,000	72,162	-22,162	演奏者CD、写真用紙、POP材料、お茶菓子等
外部団体受け入れ	カットボランティア	3,000	0	3,000	お茶菓子等
わかば	図書	120,000	116,142	3,858	カバーかけ用フィルムルックス、欠巻本、テプラテープ等
	ソーイング	20,000	12,284	7,716	生地、糸、マジックテープ等
	折り紙会	5,000	5,353	-353	折り紙材料
	七夕	10,000	12,234	-2,234	七夕短冊材料、お焚き上げ初穂料
	Xmasカードづくり	20,000	37,713	-17,713	Xmasカード材料
	ボランティアSHOP	20,000	22,927	-2,927	SHOP材料
	サンタ訪問イベント	70,000	77,930	-7,930	病院長クリスマスカード、ラッピング袋
外来医事課サポート	外来案内	2,000	905	1,095	掃除用具(※1)
緩和治療病棟サポート	お茶会	60,000	35,355	24,645	コーヒー・紅茶・お茶・コンディメント、個包装のお菓子代(※1)
ボランティア活動全般	会議費	200,000	210,741	-10,741	ボランティア交流会・懇親会・10周年記念の会(※2)
	雑費	120,000	103,158	16,842	ハガキ代・インク代・洗剤等の消耗品(※1)
合計		¥709,558	¥706,904	2,654	経理課へ返金

※1: 図書や外来案内、お茶会等で使用している消毒用のエタノール、ガーゼ、エタコット、検査用手袋の他、ボランティア室で使用している、ペーパータオルやティッシュ、手指用消毒アルコールは、購買施設課からの支給のため、上記支出には含まない。

※2: 10周年記念の会の費用の一部は、ボランティア活動へいただいた寄付金より支出。

皆様のご協力で購入不要なものもあります。活動で使用する品物を『Wish List』として物品寄贈を呼びかけ、年末には職員からの寄贈も多数集まりました。ご提供いただける品物がありましたら、ぜひお持ちください！ご協力、宜しくお願いいたします。

### ボランティア Wish List

～物品提供ご協力のお願い～

- ◆ 木綿の布(25×25 cm以上) ⇒ 患者さんが使用される尿瓶キャップの材料として活用します
- ◆ BOX ティッシュの空き箱
- ◆ 書き損じのはがき ⇒ 図書や布を寄贈して下さった患者さんやご家族へはがきや切手に代えてお礼状を発送しています
- ◆ コーヒー・お茶 & お菓子など ⇒ 活動していただいたボランティアさんにお茶とお菓子で休憩していただいています

ボランティア支援室では、上記の物を必要としています。  
各部署やご自宅で眠っている品物はございませんか？  
ご提供いただける品物がありましたら、ぜひお持ちください！

ボランティア支援室（アクアコート棟 5階）  
ボランティアコーディネーター柴田（PHS：7346）



がん研ボランティアアシストマーク

②ブックオフへの図書買取り金額（冊数：2,408冊、金額：83,514円）

多数の寄贈本をいただき、本棚やキャパシティーをオーバーしたため、患者サービス委員会で了解を得て寄贈いただいた本をブックオフへ買取りを依頼しています。買取り金は全額「ボランティアわかば募金」に加え、金額がまとまった時点でがん研へ寄付していますが、ボランティア活動で有効に使えるようにして、図書カバーかけで使用しているフィルムルックスを購入に充てています。

<参考> フィルムルックス価格（定価）大サイズ：約¥10,000 / 小サイズ：約¥8,000  
2015年購入分（大サイズ：5本、小サイズ：10本）

No	日付	箱数	書籍		コミック		CD、DVD		その他		合計		値段がつかなかった数
			冊数	金額	冊数	金額	枚数	金額	冊数	金額	冊数	金額	
1	4月3日	2箱	63	4,309	23	209					86	4,518	47
2	4月14日	5箱	165	10,225	30	584					195	10,809	105
3	4月27日	2箱	70	3,279	18	302					88	3,581	70
4	5月26日	2箱	59	2,770	13	71					72	2,841	76
5	6月9日	2箱	49	2,748	19	256					68	3,004	85
6	6月29日	2箱	52	3,813	6	80					58	3,893	71
7	7月9日	4箱	136	7,195	41	689					177	7,884	124
8	7月29日	3箱	59	2,629	46	1,135					105	3,764	90
9	8月7日	4箱	83	4,928	4	43					87	4,971	133
10	8月25日	2箱	64	802	1	11					65	813	76
11	9月25日	10箱	104	2,471	328	3,777					432	6,248	397
12	10月20日	3箱	66	3,421	58	2,746					124	6,167	81
13	11月5日	3箱	73	2,575							73	2,575	155
14	11月11日	5箱	267	5,175	2	15			1	1	270	5,191	128
15	11月20日	1箱	36	1,720	1	6					37	1,726	27
16	12月8日	1箱	15	514	5	54					20	568	20
17	12月28日	4箱	135	5,870	25	306					160	6,176	91
18	2月2日	1箱	30	467	3	23					33	490	27
19	2月16日	1箱	35	442	2	122					37	564	18
20	2月22日	3箱	71	3,432	14	80					85	3,512	85
21	3月15日	4箱	112	4,049	24	170					136	4,219	198
合計											2,408	83,514	2,104

③ボランティアわかば募金（募金額：74,778円）

2015年3月末時点でボランティア室でお預かりしている募金額です。ブックオフでの古本の買取金やボランティアチャリティーSHOP終了後に在庫の品物をボランティア室で継続して販売した売上金の総額です。10万円を超えたら寄付金として募金課に寄付し、がん治療を受けられる患者さんのため、また、ボランティア活動でも有効に使わせていただきます。

④募金箱設置（募金額：3,532円）

ボランティア室内に募金課のがん研究・医療推進募金箱を設置しました。院内にも新棟建設のための募金箱が設置されていますが、ボランティア室でも何か協力できないかと、募金箱を常時設置することにしました。活動参加にあたっては食費や交通費など一切出ない、全くのボランティアでご参加いただいておりますが、日頃の活動でお昼にお弁当を購入したときのお釣りを募金箱に入れていただくなど募金にもご協力いただきました。



⑤寄付金 (金額 : 665,206 円)

ボランティアチャリティーSHOPでの売上や凶書の買取り、ボランティアわかば募金より、今年度は2回、寄付金を募金課に届けました。活動10周年記念の会では新棟建設のための寄付金として10万円、年末にはボランティア活動のための寄付金として50万円を寄付することができました。

がん研有明病院「ボランティアわかば」寄付金報告					
No	年	月日	金額	寄付先	備考
1	2009	7月6日	¥100,000	新有明特別募金	ボランティア室わかば募金より
2	2009	12月21日	¥134,500	手術室募金	ボランティアバザー(職員&ボランティア対象)
3	2010	10月16日	¥100,000	がん研究医療推進募金	ボランティア室わかば募金より(わかば活動開始5周年記念)
4	2010	12月16日	¥320,700	がん研究医療推進募金	ボランティアチャリティーSHOP(初の手作りSHOP)
5	2011	10月18日	¥100,000	高度医療基金整備募金	ボランティア室わかば募金より(ブックオフ買取り他)
6	2011	12月22日	¥500,000	がん研究医療推進募金	ボランティアSHOP
7	2012	12月14日	¥500,000	ボランティア寄付金	ボランティアSHOP、ボランティア室わかば募金より(ブックオフ買取り他)
8	2013	8月8日	¥100,000	ボランティア寄付金	ボランティア室わかば募金より(ブックオフ買取り他)
9	2013	12月20日	¥500,000	ボランティア寄付金	ボランティアSHOP、ボランティア室わかば募金より(ブックオフ買取り他)
10	2014	12月15日	¥500,000	新棟事業募金	ボランティアチャリティーSHOP、ボランティア室わかば募金より
11	2015	9月10日	¥100,000	がん研パワーアップPJ	ボランティア室わかば募金より(ボランティア活動10周年記念)
12	2015	12月9日	¥500,000	ボランティア寄付金	ボランティアチャリティーSHOP
総額			¥3,455,200		

⑥募金活動 (金額 : 65,206 円)

ボランティアチャリティーSHOP 会場に設置した募金コーナーで募金にご協力いただいた方への御礼として、がん研のロゴマーク入りオリジナルグッズを差し上げたところ、沢山の募金が集まりました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。



がん研有明病院「ボランティアわかば」募金活動報告					
No	年	月日	金額	寄付先	備考
1	2013	12月20日	¥10,695	がん研究医療推進募金	ボランティアチャリティーSHOP募金箱
2	2014	12月15日	¥7,310	がん研究医療推進募金	ボランティアチャリティーSHOP募金箱
3	2015	12月9日	¥65,206	がん研究医療推進募金	ボランティアチャリティーSHOP募金箱
総額			¥83,211		

⑦募金課への寄付金贈呈



ボランティアわかばのメンバーより、募金課に寄付金と募金をお届けしました。ボランティア活動以外にも、財政面でもがん研を支えようと、ボランティアチャリティーSHOPの開催や募金活動に力を注いでいるメンバーに、理事長からお礼状も届けられています。また、新棟建設にあたって、ボランティアの方が個人でも寄付して下さるなど、強力なバックアップをしていただきました。本当にありがとうございました。

## 7. ボランティア活動に寄せられたご意見

ボランティア活動に対して、沢山のメッセージが寄せられました。感謝のメッセージから今後の活動に対して期待のご意見も届いています。すべての患者さんのご希望や好みに合わせることは難しいことだと思いますが、私たちの活動がひとりよがりの自己満足にならないようにするためには、患者さんやご家族の声に耳を傾けることが大切です。ご意見の内容を今後の活動に活かしていきたいと思えます。

- ▶素晴らしい雅楽のコンサートにとっても感激しました。心がとても穏やかになり、嬉しく思いました。また、このように素晴らしい記念になる写真まで送っていただき、本当にありがとうございました。大切にします。皆さんのために、これからもご活躍くださるようお祈りしております。
- ▶ホスピタルコンサートでの演奏が聴けて、ホッとしました。ありがとうございました。1階でのピアノや歌声が心にしみて癒されました。ボランティアの皆さまの活動に感謝いたします。
- ▶夕方のコンサートを聞かせていただき、ありがとうございました。印象がうすれないうちに一言！音楽はいいものですね。自分の気分転換、リハビリには良かったです。知らない曲でしたが、音が染み入り、感動しました。次回、ピアノのソロとのこと、ゆったりとした日本のメロディーなどあれば、いいかと思えます。
- ▶先日、ロビーコンサートがあり、なかなか良い企画だと期待しておりましたが…残念ながら闘病生活を送っている患者に合わない、静かな曲であれば淋しい悲しい曲が多く、即刻退去しました。
- ▶素敵なコンサートのご案内を見かけましたが、「笑い」が免疫力を上げるという話をよく聞きます。「がん研寄席」など催されてはいかがでしょう？
- ▶折り紙の会のボランティアの方が気さくに声をかけてくださり、「富士山と桜の額」を記念に作りました。ありがとうございました。
- ▶診察と検査の待ち時間に、ボランティア図書にあった童話を読みました。家にいたら読まなかった本が読めて、感動して有意義な時間となりました。病院で空いた時間をいかに有意義に過ごすかは、その人の興味のあり方によって、楽しく過ごせるものだと思います。次に来る時は、家の本を寄付してもいいかなと思えました。読む人が感動してくれたら、一人でもいいな！と思えました。今日は良い本が読めて幸せでした。この本から教わったことは、元気よく挨拶することでした！！
- ▶古本屋さんで買って、病室に持ってきました。重複でなければ、ボランティア図書の一冊に加えてください。この病院に来て、あまりにも丁寧に図書が扱われ、いつでも利用できるようにと本棚が開放されていて感激いたしました。読みたかったけれど躊躇していた著者の作品を読んでみて、また喜びを感じています。物語は贅沢な気分させてくれるだけでなく、痛みも軽減してくれます。ありがとうございます。
- ▶デイルームが明るく、過ごしやすかったです。中でもボランティア図書館、とても良かったです！入院中に沢山本を読んで退屈しませんでした。本に心が和まされたり、気分転換をはかることができました。皆さまのご活躍とご健康をお祈り申し上げます。ありがとうございました。
- ▶前回、本を送らせていただいた後に、お葉書をくださり、どうもありがとうございました。とても嬉しい気持ちになりました。継続して送らせていただきたいと思えます。子ども連れでの外来やお見舞いなどロビー、待合室を利用する親子が少しでもよい時間を過ごせるように…と思えました。
- ▶先般は、図書寄贈のお礼状を送っていただき、大変感謝しております。今回もまた書籍を送らせていただきます。古いものは送ってはいないつもりですが、選定していただき、無理であれば申し訳ありませんが、処分していただければ幸いです。押し付けているようで申し訳ない気もいたしますが、入院患者さんや外来で来られる患者さんに、また利用していただければ嬉しいです。大変な作業が残っていると思えますが、宜しく願いいたします。



(アクアコート 5 階のボランティア室の眺め～東京湾にかかる虹～)



がん研有明病院ボランティア支援室